



施工 インフォメーション

ケントウッド施工ガイド 18 mm、19 mm厚無垢フローリング

ケントウッドフロアの施工をはじめる前にこの施工ガイドを必ずお読み下さい。
ケントウッドフローリングはこれからご説明する施工方法に基づき、専門的な施工技術者により行うことをお勧め致します。

施工者および所有者の責任

ハードウッドはもともと天然の産物なので、色、年輪、見た目にばらつきがあり、完全無欠のものではありません。ケントウッドハードウッドフローリングは業界の定める5%以内の欠陥許容率に従い製造されています。欠陥には製造工程からくるものと自然の産物としてできたものがあります。必要量を計算される際は廃棄分5%の余分をみて、計算されることをお勧め致します。

施工者および所有者には、製品の等級、製造、工場仕上げについて最終検査をする責任があります。個々の板材は必ず施工者および所有者によって品質、仕上げ、色等の確認がなされてから、釘付けされていきます。商品の品質が許容範囲でないとみなされた場合は、施工をしないで下さい。施工されたフローリングは施工者、所有者により検査され、受け入れられたとみなされます。

施工者および所有者には施工現場、下地床、施工器具が施工に適しているものであるかを確かにする責任があります。ケントウッドでは不適正な施工現場の準備及び施工方法に関しては、責任を負うことができません。

施工場所

ケントウッドフローリングは一般住宅の室内使用のみとなり、下記の場所、方法にて取り付けすることが出来ます。

- 釘もしくはステープルでの施工
- 地上以上の場所
- プライウッドもしくはOSB下地への施工

この商品は地下室への使用には適しておりません。また浴室、洗濯場には施工しないでください。

施工準備

新築の場合

ハードウッドフローリングの施工は新築現場において一番最後に行われる仕事です。施工開始前に以下のことを確認して下さい。

- 建物は全ての外装ドア、外装窓の取り付けが終わり、全て閉められた状態であること。
- 全てのコンクリート、煉瓦、しっくい、ドライウォール、塗装及び湿気を共なう作業は完了し、完全に乾燥していること。



yukazai.com

輸入床材のオンラインショールーム



施工 インフォメーション

- 地下室と地下収納庫は完全に乾燥している状態であること。
- 地下収納庫には水気がなく、防湿紙を施工してください。
- 外装表面の排水は建物から水分を除外するようにしてください。
- 室内の温度、湿度は調整され、この施工ガイドに記されている温度、湿度レベルに保つようにしてください。
- 下地床は施工に適したように準備されているようにしてください。

リフォームの場合

住宅の状態が新築施工に要求されている状態を満たしているようにしてください。フローリングがかなり大きいリフォームの一部として取り付けされる場合は、水まわりの仕事（ペイント塗装、ウォールパネル等）が完了し、施工に入る前に、完全に乾燥している状態であるようにして下さい。それに加え、下記事項についてご注意ください。

- 全ての家具は部屋より移動しておいて下さい。
- ベースボード、巾木は取り除いて下さい。
- ドア枠は必要であれば切り上げて下さい。
- 現在取り付けられているフローリング材は必要であれば取り除いて下さい。

フローリングを温度、湿度に順応させること及び、温度、湿度の管理

施工現場の温度、湿度管理は非常に重要なことです。施工中また施工後も、温度は摂氏 20～22℃、湿度は 40～60℃以下に保つようにしてください。この状態に施工をはじめる少なくとも一週間前から調節し、フローリングが正しく保たれるために、この状態を常に保つようにしてください。詳細については保証をご参照ください。

フローリングを取り付ける現場が上記に説明されている状態になるまで、フローリングを施工現場に持ち込まないでください。フローリングが搬入されてから、使用環境に慣らすため、推薦されている湿度と室温の状態、少なくとも 72 時間、室内に放置しておかなければなりません。施工直前まで箱は開封せず、必要な量だけ、開封していくようにしてください。また箱と箱は交互に重ね、通気性がよくなるようにして下さい。

下地床の準備

施工者及びお客様には下地床をフローリング施工に適したものに準備する責任があります。全ての下地床はきれいに掃除がされ、完全に乾いた状態であり、水平で真っ直ぐであることを確認して下さい。（水平さの許容範囲は 2440mm につき 3 mm です。）また全ての下地床は含水率計で検査されなければなりません。

プライウッド下地床は地元の建築基準に基づき、最低 1.5cm の実はぎ継ぎプライウッド、もしくは 1.9cm の実はぎ継ぎ OSB でなければなりません。またジョイント部分が固く納まり、音鳴りがなく、しっかりと留められている状態でなければなりません。

下地床の含水率は 12% を超えることなく、フローリングとの含水率の差が決して 4% 以上にならないようにして下さい。



yukazai.com

輸入床材のオンラインショールーム



施工 インフォメーション

伸縮スペース

ハードウッドフローリングは温度、湿度により伸縮しますので、施工時には壁から 12 mmの伸縮スペースをとるようにしてください。またその他、フロアが接触されるとする、階段、パイプ、ドア枠、タイル、キャビネット等からも 12 mmのスペースを空けるようにしてください。

注意：

湿気が 40～60%を超える地域や 60 m²を超える部屋への施工は、12 mm以上の伸縮スペースが必要となる場合もあります。

釘打施工

注意：

18, 19mm 厚ケントウッドフローリングを施工される際は 19mm ハードウッドフローリング用にデザインされた手動式、空気式、または兼用の釘打ち機が必要です。

- 下地床が適切に準備されているか確認してください。
- 含水率が許容範囲であるか、確認してください。
- 下地床から上がる湿気を最小限にするため、全ての下地床に 15 パウンド (6.75 キロ) のルーフィングフェルトもしくはビルディングペーパーを敷いてください。
- 施工を始める側の壁を選択し、壁に平行にチョークで補助線を引いてください。膨張スペースとして壁 4 面に 12mm の膨張スペースを空けることを忘れないでください。

板の選択

ハードウッドは自然のものですから、どのような場合でも板により色の違いは発生します。4, 5 箱開封し、長さや色調が適度に混ざり合い、床の木目が美しく調和するよう配慮しながら、作業を進められるようにしてください。残りの箱は開封せず、必要に応じて、適量開封するようにしてください。

板を選択する際、製造時に発生した欠陥を検査してください。業界の定める、製造工程からくる欠陥許容率（全体量の 5%）以上の際は販売店がその保証に基づき、取り替えさせて頂く場合があります。すでに施工された商品はお客様に受け入れられたとして、取替えはさせて頂けません。

検品後、凹形の溝側を壁側にし、最初の列に板を置いてください。一列目と二列目はスペースが限られ、大きな釘打機が使えないため、その他の器具で施工するようにしてください。

はじめた板の端から 12 mmのところから表面から釘を打ち込んでください。（この釘は巾木でカバーされます。空気式の仕上げ釘打機か、2"（50 mm）長さの釘を使用し、施工をしてください。

“隠し釘”と言われる方法で一番最初の列の凸形実側を 2" の仕上げ釘を使って 45 度に 20～25cm 間隔で留めてください。壁からの両端は 5cm～7.5cm のところで釘を打ち込むことをお勧めしますが、割れを防ぐため、5cm 以下の部分には釘を打ち込まないでください。釘の頭を押し込み、実はぎ継ぎがしっかりと留まる邪魔にならないようにしてください。最後の板の長さが 20cm 以下にならないように切断し、1 枚の板に少なくとも 2 箇所の釘が打ち込まれているようにしてください。膨張スペースとして 12 mmのスペースを必ず残してください。

次に板を選択し、最初の列の次に 2 列目を置きますが、一列目の最後に切断した残りの板を 2 列目の最初に使うことができます。板の継ぎ目は 15cm 以上はずらすようにしてください。



yukazai.com

輸入床材のオンラインショールーム



施工 インフォメーション

板の実はぎをつなげる際はタッピングブロックとハンマーを併用するか、ゴム付きハンマーでたたってください。（決して直接ハンマーで板をたたくことがないようにしてください。）同じように“隠し釘”をしてください。

3列目からは釘打機を使うスペースがあります。施工の際は必ず、厚み19mmの無垢床材専用の手動式釘打機、空気式釘打機もしくは空気式ステイプル打機をご使用ください。

床材をはめ込み、2インチ（5cm）の釘もしくはステイプルを使用し、45度の角度で“隠し釘”を打ち込んでください。20～25cm間隔で留めてください。壁からの両端は5cm～7.5cmのところまで釘を打ち込むことをお勧めしますが、割れを防ぐため、5cm以下の部分には釘を打ち込まないでください。

引き続き施工を続けますが、20cm以下の板の使用を避け、板の継ぎ目は15cm以上ずらすようにし、一枚の板に少なくとも2箇所の釘が打ち込まれているようにしてください。膨張スペースとして12mmのスペースを必ず残してください。

最後の2、3列は釘打機が入るスペースがない為、手で施工をしていきます。前と同じように“隠し釘”の方法で凸形実部分に2インチ（5cm）の釘を打ち込んでいきます。最後の列は残ったスペースに板がはまるよう、板巾の切断が必要かもしれません。そして板の表面から釘打ちするか、板に穴を開け、2インチ（5cm）の釘をハンマーで打ち込みます。

必要な巾木等を施工し、巾木はフローリングではなく、壁に取り付けてください。フローリングは施工後直ぐにお使い頂けます。

その他のケントウッド商品に関する施工方法に関しましては、弊社までお問い合わせください。